



スクリプトの導入と実行 SnapManager Oracle

NetApp
November 04, 2025

目次

スクリプトの導入と実行	1
ASMLib のない Oracle RAC ASM データベースのサポート	3
ASMLib のない Oracle 10g ASM データベースのサポート	3

スクリプトの導入と実行

ASMLib なしで ASM データベースをサポートするために、asmmain.sh および asmquerydisk.sh スクリプトを展開して実行できます。

これらのスクリプトは 'プリスクリプトやポストスクリプト構文には準拠していませんまた 'initasmdisks が有効になっている場合にワークフローが呼び出されますスクリプト内の構成設定に関連する項目を変更できます。クイックドライランを実行して、スクリプト内のすべてが期待どおりに動作しているかどうかを検証することをお勧めします。



これらのスクリプトは、システムに障害を与えたり、システムに影響を与えたりすることはありません。これらのスクリプトを実行して、ASM 関連ディスクに対する適切な権限と所有権を更新し、ディスクが常に ASM インスタンス制御の対象になるようにします。

1. パーティショニングされたディスクを含む ASM ディスクグループを作成します。
2. ディスクグループに Oracle データベースを作成します。
3. SnapManager for Oracle サーバを停止します。



RAC 環境では、この手順をすべての RAC ノードで実行する必要があります。

4. smo .conf を変更し、次のパラメータを追加します。
 - a. oracleasm.support.without .asmllib = true
 - b. oracleasm.support.without .asmllib.ownership=true
 - c. oracleasm.support.without.asmllib.username = ASM インスタンス環境のユーザ名
 - d. oracleasm.support.without.asmllib.groupname = ASM インスタンス環境のグループ名これらの変更は絶対パスのみの権限を設定します。つまり、パーティションデバイスではなく、アクセス権は dm- * デバイスに対してのみ設定されます。
5. /opt/NetApp/smo/plugins/examples/noasmllib で使用できるプラグインスクリプトを変更して、スクリプトに構成設定を含めます。
6. ホストで SnapManager for Oracle サーバを起動する前に、/opt/NetApp/smo/plugins/noasmllib にスクリプトをコピーします。
7. /opt/NetApp/smo ディレクトリに移動し、次のスクリプトを実行してリハーサルを実行します。 sh plugins/noasmllib / asmmain.sh

使用されるメインファイルである /etc/initasmdisks ファイルが作成されます。

/etc/initasmdisks ファイルには、ASM データベースの設定に関連するすべてのデバイスが含まれていることを確認できます。たとえば、次のようになります。

```

chown -R grid:oinstall /dev/mapper/360a98000316b61396c3f394645776863p1
chmod 777 /dev/mapper/360a98000316b61396c3f394645776863p1
chown -R grid:oinstall
/dev/mapper/360a980003754322f7a2b433469714239p1
chmod 777 /dev/mapper/360a980003754322f7a2b433469714239p1
chown -R grid:oinstall
/dev/mapper/360a980003754322f7a2b433469714241p1
chmod 777 /dev/mapper/360a980003754322f7a2b433469714241p1
chown -R grid:oinstall
/dev/mapper/360a980003754322f7a2b433469714243p1
chmod 777 /dev/mapper/360a980003754322f7a2b433469714243p1

```

8. SnapManager for Oracle サーバを起動します。
9. snapdrive.conf ファイルに次の項目を追加して、SnapDrive for UNIX を設定します。disconnect-luns
-befor-bssr=on
10. SnapDrive for UNIX サーバを再起動します。



RAC 環境では、すべての RAC ノードで手順 3~10 を実行する必要があります。

/etc/initasmdisks ファイルを作成するには '起動スクリプトのいずれかから実行するか'rc3.d で新しく定義されたスクリプトから実行する必要があります/etc/initasmdisks ファイルは、常に oracleha サービスが開始される前に実行する必要があります。

例

```

# ls -ltr *ohasd*
      lrwxrwxrwx 1 root root 17 Aug  7 02:34 S96ohasd ->
/etc/init.d/ohasd
      lrwxrwxrwx 1 root root 17 Aug  7 02:34 K15ohasd ->
/etc/init.d/ohasd

```

次の例では 'sh-x/etc/initasmdisks はデフォルトでは使用できず 'ohasd スクリプトの関数 'tart_stack()' の最初の行として追加する必要があります

```

start_stack()
{
sh -x /etc/initasmdisks
# see init.ohasd.sbs for a full rationale case $PLATFORM in Linux
}

```

ASMLib のない Oracle RAC ASM データベースのサポート

Oracle RAC データベースを使用している場合、マスター RAC ノードで操作が実行されるたびに、RAC ノードを `initasmdisks` ファイルで更新する必要があります。

マスターノードから RAC ノードにログインするための認証が不要な場合、`asmmain.sh` はすべての RAC ノードに対して `initasmdisks` のセキュアコピー（SCP）を実行します。リストアが行われるたびにマスターノードの `initasmdisks` ファイルが呼び出され、`asmmain.sh` スクリプトが更新されてすべての RAC ノードで同じスクリプトが起動されるようになります。

`/etc/initasmdisks` ファイルは ' 起動スクリプトのいずれかから ' または `rc3.d` で新しく定義されたスクリプトから実行する必要があります。`/etc/initasmdisks` ファイルは、常に `oracleha` サービスが開始される前に実行する必要があります。

ASMLib のない Oracle 10g ASM データベースのサポート

Oracle 10g を使用している場合は '`asmcmd` コマンドを使用してディスクを一覧表示することはできませんSQL クエリを使用してディスクリストを取得できます。

`disk_list` SQL スクリプトは、SQL クエリをサポートする `examples` ディレクトリ内の既存のスクリプトに含まれています。`theasmquerydisk.sh` スクリプトを実行する場合は、`disk_list.sql` スクリプトを手動で実行する必要があります。`asmquerydisk.sh` ファイルにコメントを付けたサンプルスクリプト行が追加されています。このファイルは、`/ホーム/グリッド` の場所または任意の別の場所に配置できます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。